



沢辺税理士事務所通信

令和 7 年 10 月 1 日号
NO. 140

※※※

生成AIを使い倒す時代がやってきた

※※※

アメリカのGAFAMのうち Meta、Amazon、Alphabet（グーグル）、Microsoft の 4 社で 2025 年だけでも約 3,200 億ドルを AI 技術関連に投資するそうです。途方もない額ですが、もはや事業投資の意味だけではなく、世界中の情報、インフラの覇権を握ることで政治的・軍事的な影響力や支配も考えているのかもしれませんが。

そして一般的に生成 AI が普及し始めたのは 2023 年ころからですが、厳密には「AI」と「生成 AI」は意味や範囲が異なります。AI は人工知能やその技術の総称ですが、**生成 AI は、そのうちテキスト・画像・音声などの新しいデータを生成する AI のこと**を指します。メールの文章を自動作成したり、文章（プロンプト）から画像を作ったりするのが生成 AI です。

その生成 AI で有名なものは ChatGPT、Gemini、Copilot などですが、調べてみると結構たくさん種類があるようですね。また無料版と有料版のものがあり、何百ページもの長文分析や画像解析、音声解析、ファイル分析などを行うのであれば有料版が必要になりますが、文章入力で回答をもらう、という用途が主であれば無料版でも充分そうです。

私も最近、少し複雑な税務相談についてまず生成 AI に回答してもらい、その回答を裏付けする形で関連法令などを確認していく、という使い方をしています。とっても優秀ですが、**最新の改正内容についてはアップデートが充分でないのか、間違った回答が返ってくることもよくあります**。「その部分は間違っていないですか」と再質問すると、「さすがですね！」と褒めてくれます（生成 AI の種類によっては塩対応のものもあるらしい）が、再回答の内容も充分でなかったりするので、今のところ税務に関する信用度は 80～90%位という感覚です。あくまで回答のたたき台として使う感じです。

また最近会計面で話題になっているのは、領収書を重ねてそれを 1 枚ずつめくる動画を Gemini に読み込ませると、経費精算に使えるような一覧表を自動作成してくれたり、複式簿記による会計仕訳を自動生成してくれるというものです。これが高精度でできてしまうと、AI-OCR 対応の会計ソフトが要らなくなるかもしれません。AI を使いこなせない会計事務所は近い将来消滅してしまうのでは、と思いましたね。

生成 AI の使い道は無限で、例えば自社の経営現況を詳しくプロンプト入力して、「5 年後に年商 10 億円にするために必要な経営計画を、同業他社の傾向も踏まえて、マーケティング面、人事面、財務面を中心に立ててください」と質問すると、豊富な情報量を元に、精度の高い計画を立案してくれます。上場企業でも、自社でカスタマイズした生成 AI の回答を元に新商品を開発したり、経営そのものを行っている会社があるくらいです。

ただあくまでも**生成 AI の提示するものは「提案」であり、それを元に思考し、決断し、行動するのは経営者自身**です。ボスは社長であることに変わりない、ということさえ忘れなければ、生成 AI はとても優秀なパートナー、アシスタントになってくれると思います。

生成 AI は日進月歩でどんどん使い方も変わってくると思います。事業経営にもプライベートにもうまく活用して、人生を高めるものにしていきたいですね。

沢辺税理士事務所 株式会社沢辺会計コンサルタント

〒732-0811 広島市南区段原三丁目3番27号 段原メディカルビル3階

TEL 082-236-3935 FAX 082-236-3936 HP: <http://www.sawabe-ac.jp>